

水 みず

土 つち

S
O
L
L

寒川典美《八槻の黒わし》
テラコッタ 1985年



多摩美術大学美術館HP



<https://museum.tamabi.ac.jp>

2022 4/2 SAT ~ 9/4 SUN 10:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

入館料: 300円 学生以下無料

多摩美術大学美術館コレクション展

みつめる × かんがえる

休館: 火曜日、5月9日(金) および展示替え期間 [6月27日(月)-30日(木)] ※但し、5月3日(火・祝)は開館 主催: 多摩美術大学美術館

※一部作品について展示替えを行います。

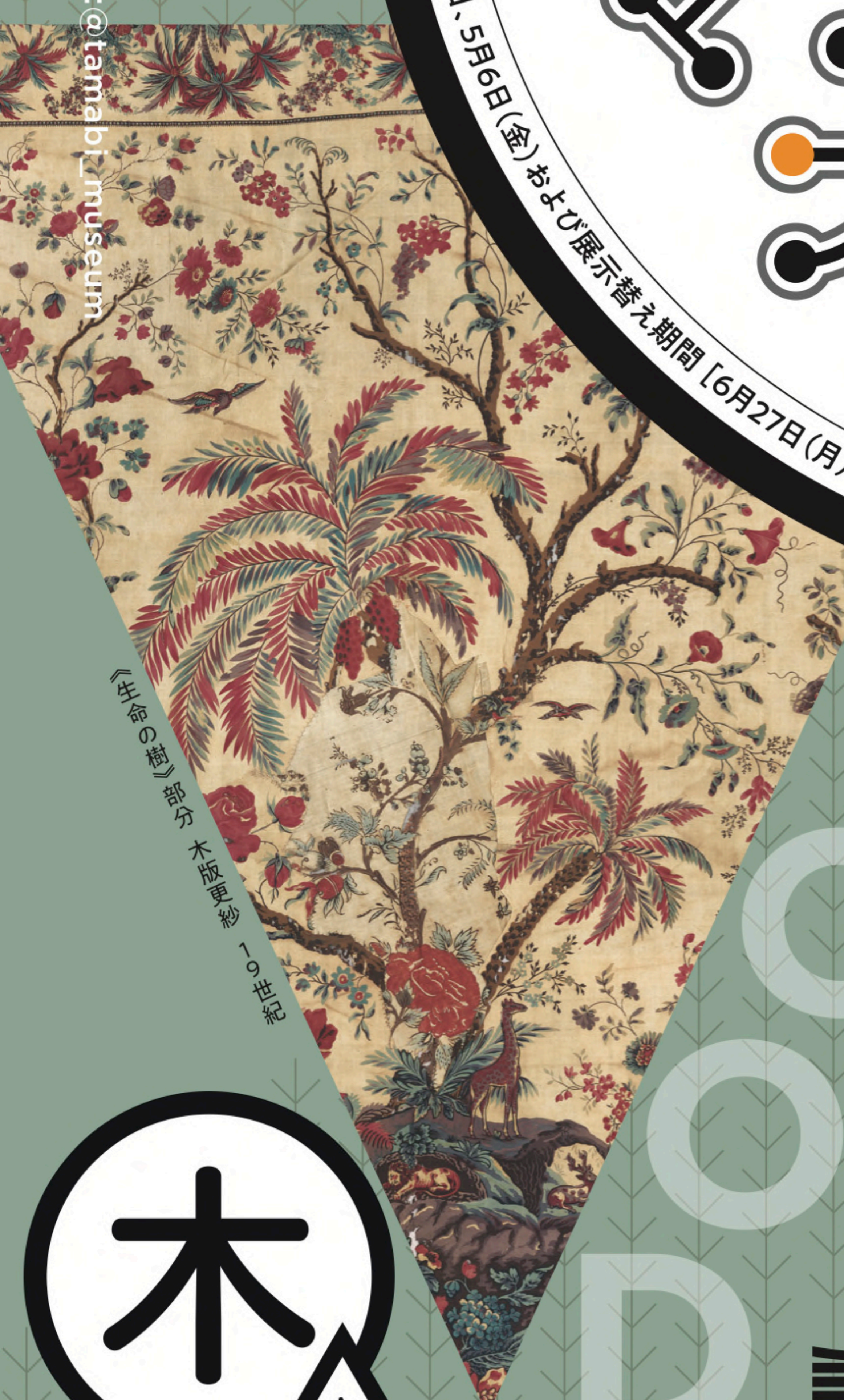
渡辺達正《深海3》部分
マテリアル NOON

W
A
T
E
R

最新情報はコチラ



Twitter: @tamabi_museum



《生命の樹》部分 木版風絵 一〇世紀

木 き

金 きん

M
E
T
A
L

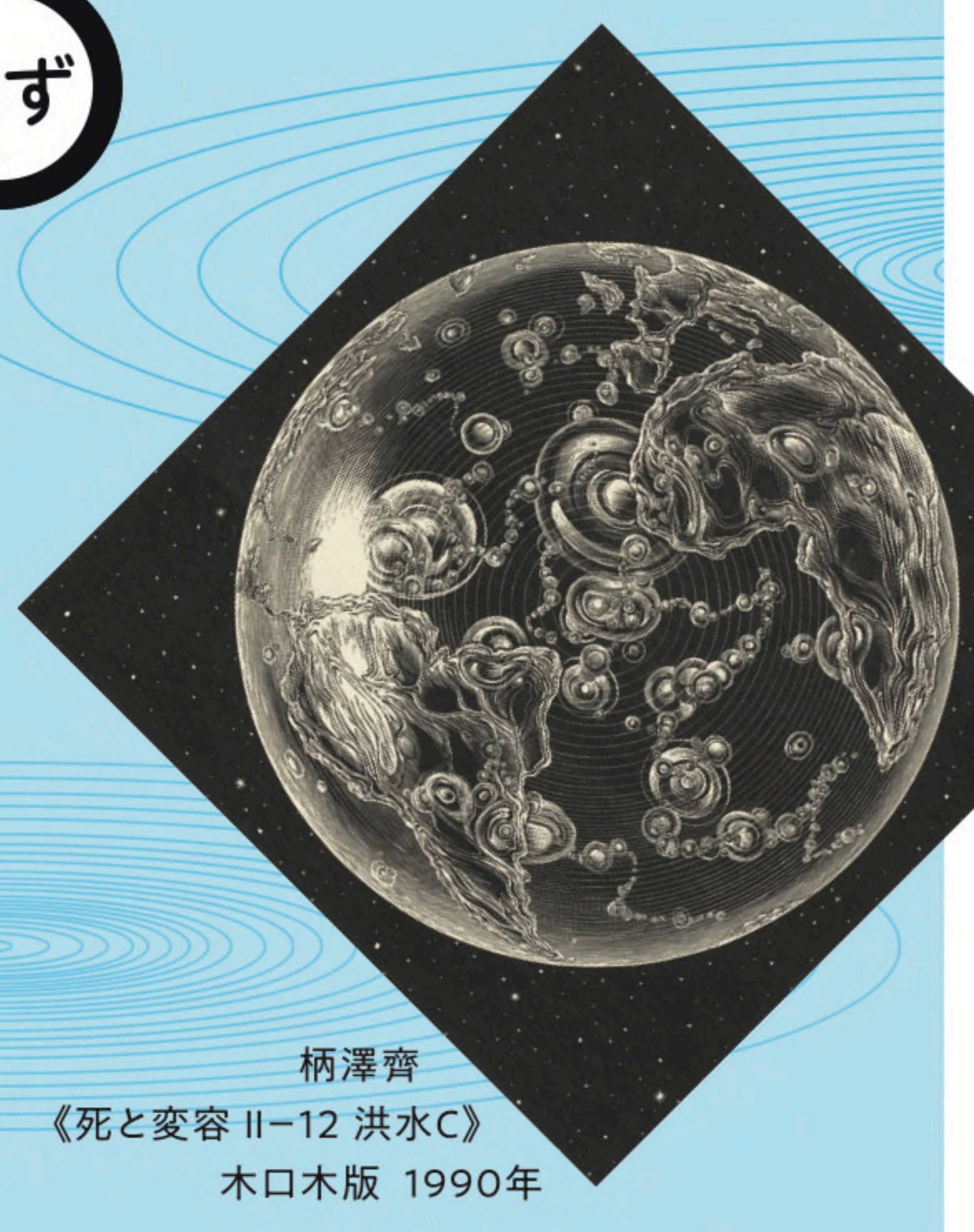
舟越保武《原の城》ブロンズ 1971年



多摩美術大学美術館

みず

常にゆらぎ流転しながら、心の深淵をうつつし出す鏡となる



柄澤齊
《死と変容 II-12 洪水C》
木口木版 1990年



杉浦非水《姫鶴と波紋の表情》絹本着彩 1955年

WATER

いにしえより暮らしや文化を育み、生き方や生命そのものを象徴する



圓鐙勝三《休む少年》
木彫 1955年



高木晃《漆の島》漆・布・FRP 1995年

き

本展は多摩美術大学美術館コレクションから4つのマテリアル「水・木・金・土」にまつわる作品を展示いたします。

現代において「美術」の意味で使用される言葉「アート=art」は、その語源を辿ると、芸術はもとより医療術・料理術・説法術など「わざ」全般を指していました。生きるために必要なものをつくる行為と、私たちの心に豊かさをもたらす美術作品の制作は、ともに**創造**に向かって地上にある素材を用い、わざを駆使するプロセスです。

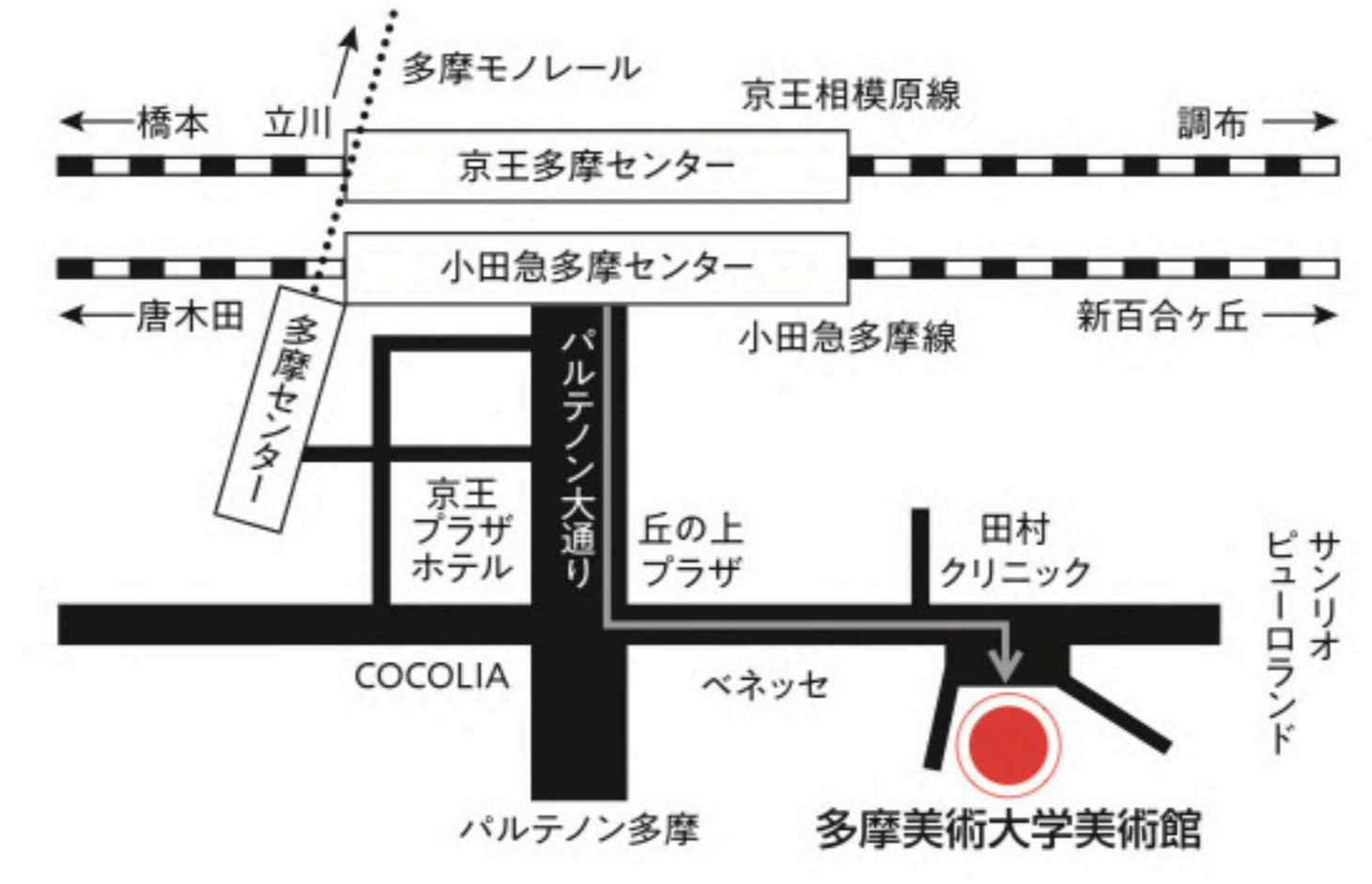
水・木・金・土という4つの素材を取り上げ、素材そのものの物質的特性と表現のつながりに目を向けます。古代から現代まで当館コレクションを広く紹介し、人間の営みや精神との密接な関係から生まれた多様なイメージを探っていきます。私たちの身の回りにある素材の細部を**みつめて**感性をひらくことで、つくり手と素材との間で交わされた幾重もの対話を**想像**し、人と素材との関係性について改めて**かんがえる**機会となれば幸いです。



- 学芸員によるギャラリートーク**
学芸員が展覧会の意図や作品についてわかりやすく説明します。
- 『水×金』4月24日
- 『木×土』5月22日
- 『金×木』7月31日
- 『土×水』8月21日
- 各日曜日 15:00-16:00
- 【要事前申し込み】
お申し込みは当館HPをご覧ください。
定員：先着20名
参加費：無料
※但し要入館料
- いつでもどこでも TAUM (動画配信)**
心理占星術研究家の鏡リュウジ氏をゲストに迎えた鶴岡真弓(当館館長)との対談をはじめ、展覧会に関連した動画を配信します。
当館HPをご覧ください。

多摩美術大学美術館

〒206-0033
東京都多摩市落合 1-33-1
042-357-1251(代表)
京王相模原線
小田急多摩線
多摩モノレール
「多摩センター」駅より徒歩7分



【お願い】新型コロナウイルス感染症の拡大・収束状況により、開催状況およびイベント内容が変更となる場合がございます。最新情報は当館のHPにてお知らせいたしますので、ご確認ください。また感染拡大防止のため、ご来館にあたっては、マスクの着用や検温、混雑時の入場制限にご協力をいただいております。

つち



宮崎進《立つ男》石膏・油絵具 1995年



寒川典美《八槻の保々吉灰》
テラコッタ 1989年

SOIL

METAL



《如来像》
青銅鍍金 8世紀
(統一新羅)



《ローマ秤》部分 青銅 1世紀

生命を育む母であり、私たちの足もとを支え、郷愁を呼び覚ます

堅牢かつしなやかに千変万化、輝き・強さ・はかなさの創造を叶える

きん